



小曾根 真(ピアノ)

Makoto Ozone (Piano)

父・実の影響でジャズに興味を持ち独学で音楽を始める。12歳でオスカー・ピーターソンの演奏を聴きジャズ・ピアノを始める決意をし、神戸在住のジャン・メルオ神父にクラシック音楽を1年間師事。この頃、関西唯一のビッグバンド、アロー・ジャズオーケストラを率いる北野タダオ氏に師事し、オーケストラの編曲に興味を持つようになる。

76年、神戸のジャズ・フェスティバル「ワイドワイドジャズ」でジャズ・ピアノ・ソリストとしてデビュー。80年、渡米。83年、ボストンのバークリー音楽大学ジャズ作・編曲科を首席で卒業。同年カーネギーホールにてソロ・リサイタルを開き、米CBSと日本人初のレコード専属契約を結び、アルバム「OZONE」で全世界デビュー。

これまでCBSから4枚、ビクターエンタテインメントから3枚のCDをリリースし、ユニバーサルミュージック/ヴァーヴ・レーベルから10枚以上のCDを発表。03年ゲイリー・バートンとのデュオ『ヴァーチュオーシ』(Concord)で、第45回グラミー賞に初ノミネート。同年、バークリー音大から名誉博士号を授与される。

近年はクラシックにも本格的に取り組み、デュトワ、ラヴィノヴィッチ、尾高忠明、井上道義、大植英次らの指揮のもと、シンフォニア・ヴァルソヴィア、新日本フィル、札幌響、大阪フィル、オーケストラ・アンサンブル金沢などと共演。ガーシュウィン、バーンスタイン、モーツァルト、ベートーヴェン、ショスタコーヴィチの協奏曲でソリストを務めている。「第18回国民文化祭・やまがた2003」では井上ひさし氏の依頼で自作のピアノ協奏曲「もがみ」を弾き振った。

08年、シュレスヴィヒ=ホルシュタイン音楽祭に大植指揮北ドイツ放送響と出演し、全ヨーロッパに生中継された。10年6月、ゲイリー・バートンと全国ツアーを行う。同年、ショパン生誕200年を記念したアルバム『ロード・トゥ・ショパン』を発表し、秋に同名の全国ツアーを成功させた。11年には井上ひさし氏の音楽劇『日本人のへそ』で作曲を担当し、ピアニスト役で出演。このほか人気FM番組「OZ MEETS JAZZ」のパーソナリティーを長年つとめるなど、ジャズの世界を超えて幅広く活躍している。

2011年4月、国立音楽大学(演奏学科ジャズ専修)教授に就任。

公式ホームページ: <http://makotoozone.com/>

2011年10月
小曾根 真 &
No Name Horses
全国ツアー開催!